



20

25

30

35

北廓の夜櫻の親父が洋燈の光線が忽ち色を失ひ珍文漢字が
勉強は是非来る所の文止る嗚呼賢と拳とて色を買ひと
曲輪解も吉原の浮名とた々揚屋町品川樓へ出稼の娼妓
盛紫と谷豊采互ひり深き其中と義理との字に柵を
泪の露の色ささる血汐の紅葉も季秋より紅み結二個が情死
其顛末と綴れりと松延堂が烈敷請求めみ否もちかね華々
採し元より拙き作意のあはれ色に覺束た々も世に薫る梅堂
大人が挿画と力らみ漸々初編の稿成りぬ

明治十四年春

春亭史彦



北廓

花

盛

紫

初編

上之卷

史彦作
國政画



松延堂

样



笠間の家老
谷豊暢娘かぜい

笠間の悪漢
土云の五郎吉



旧五嶋藩士松井友三
后谷豊栄と号

笠間の悪漢売抜百六



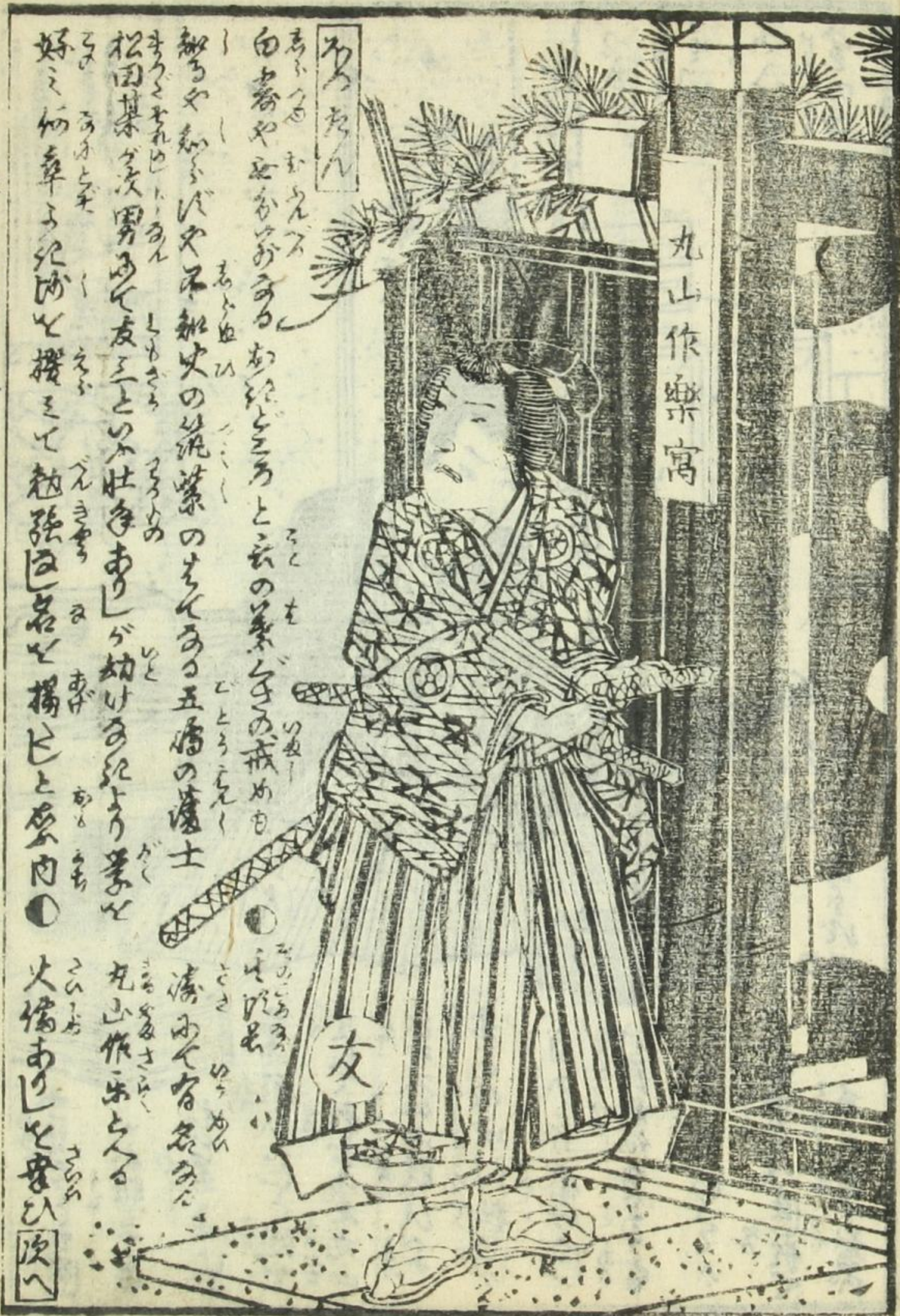
丸山作樂寓

あつらん
 白書やむらさきあるおれとさうと云の景さうの戒めも
 松田某を以て男あて友三といふ壯年ありしが幼ける紀より景を
 好む何事もこれと撥えて越強は名を揚とと屋内
 友
 丸山作樂とて
 火備ありとて母以て

盛紫切上



宗陽の儒士
 丸山作樂



丸山作樂窩
 友
 好之何事ふんゆと撰て越強は名と撰とと原内
 松田某々友とといふ壯年ありしが幼ける紀より業と
 好之何事ふんゆと撰て越強は名と撰とと原内

五五七系刀上



史記
 漢書
 史記
 漢書

作
 世に父が
 史記一々ふんゆ何れに
 氏ハ大い小暖以子
 史の出来引抄者が
 史の出来引抄者が
 史の出来引抄者が

五五七系刀上

父の種も友に

父の種も友に
種も友に
世に九山へ



衣紋
大勢
捕手の
めんく
お十右
ありて手
かたは九山へ

我が家へこそお帰りの由も是れ久き由も一房
友との縁の由も是れ久き由も一房
勉強は父の身とて遠くとは成り
急りあるは久き由も一房の災厄の由と程
たる九山は幸記の嫌難と交上り多
ふの人敷と程
不意に作
ガ巻様

世に九山へ
我が家へこそお帰りの由も是れ久き由も一房
友との縁の由も是れ久き由も一房
勉強は父の身とて遠くとは成り
急りあるは久き由も一房の災厄の由と程
たる九山は幸記の嫌難と交上り多
ふの人敷と程
不意に作
ガ巻様

世に九山へ
我が家へこそお帰りの由も是れ久き由も一房
友との縁の由も是れ久き由も一房
勉強は父の身とて遠くとは成り
急りあるは久き由も一房の災厄の由と程
たる九山は幸記の嫌難と交上り多
ふの人敷と程
不意に作
ガ巻様

世に九山へ
我が家へこそお帰りの由も是れ久き由も一房
友との縁の由も是れ久き由も一房
勉強は父の身とて遠くとは成り
急りあるは久き由も一房の災厄の由と程
たる九山は幸記の嫌難と交上り多
ふの人敷と程
不意に作
ガ巻様

ありて手
かたは九山へ

ありて手
かたは九山へ

父の種も友に



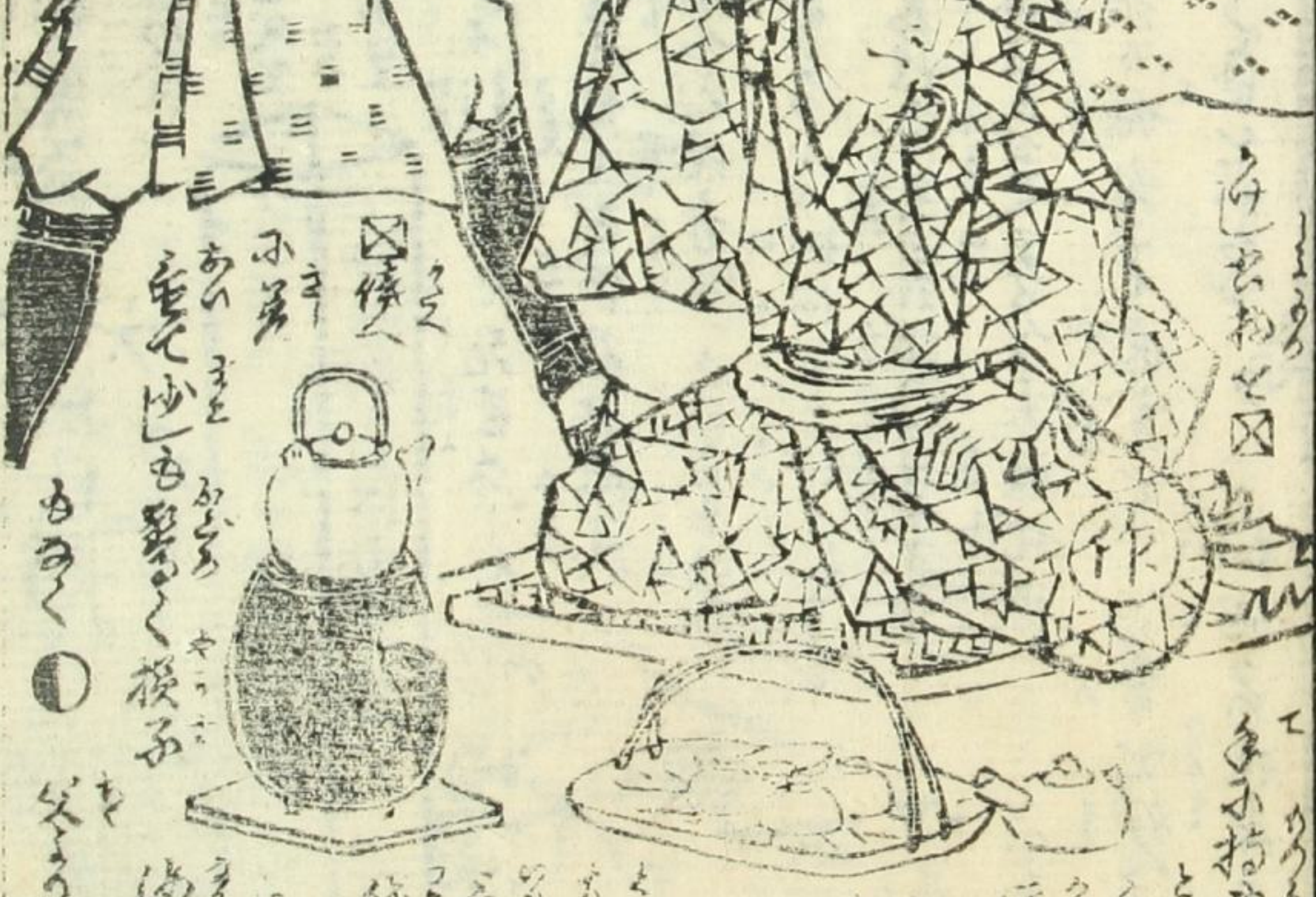
父の種も友に
種も友に
世に九山へ

父の種も友に
種も友に
世に九山へ

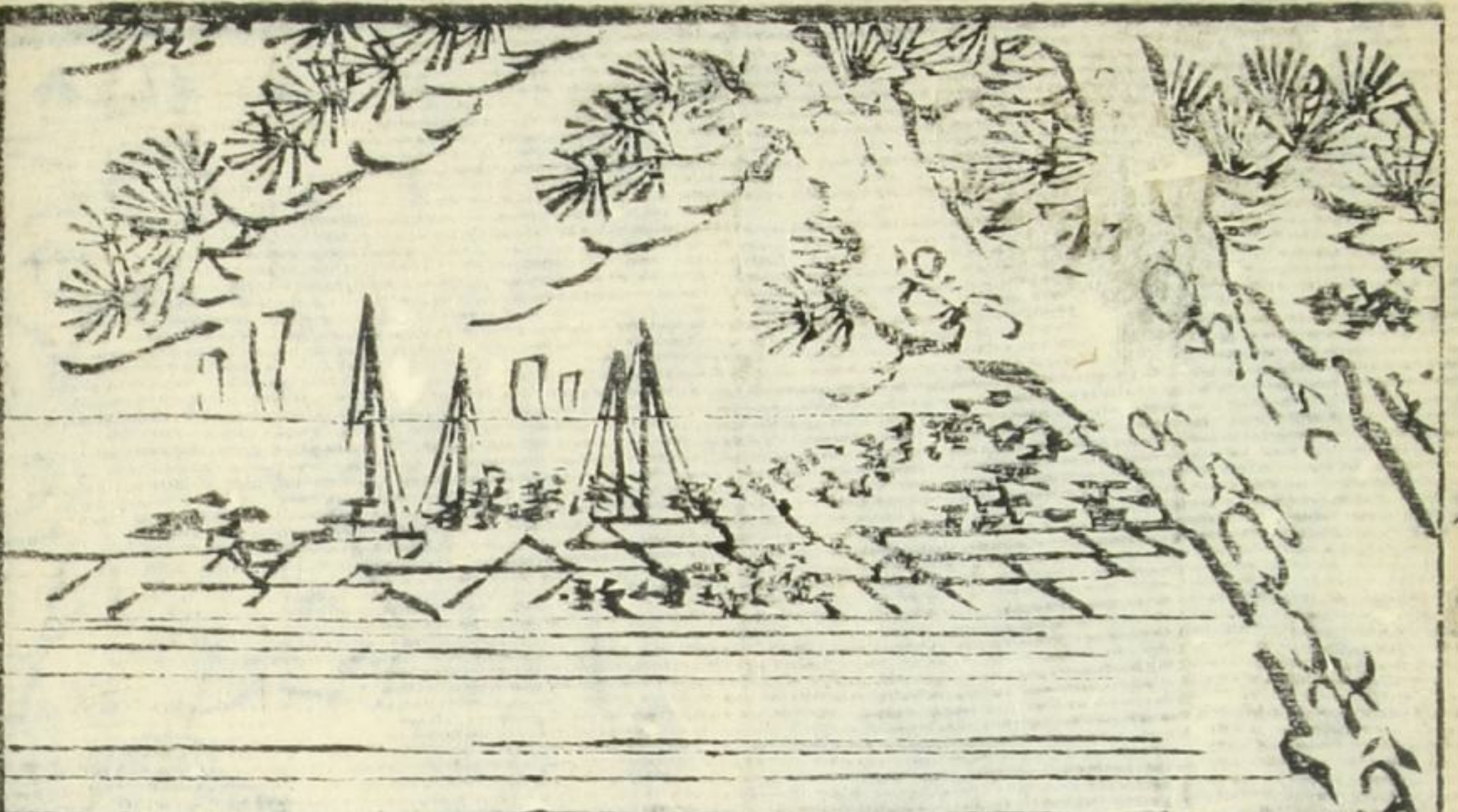
父の種も友に
種も友に
世に九山へ

父の種も友に
種も友に
世に九山へ

父の種も友に
種も友に
世に九山へ



父の種も友に
種も友に
世に九山へ

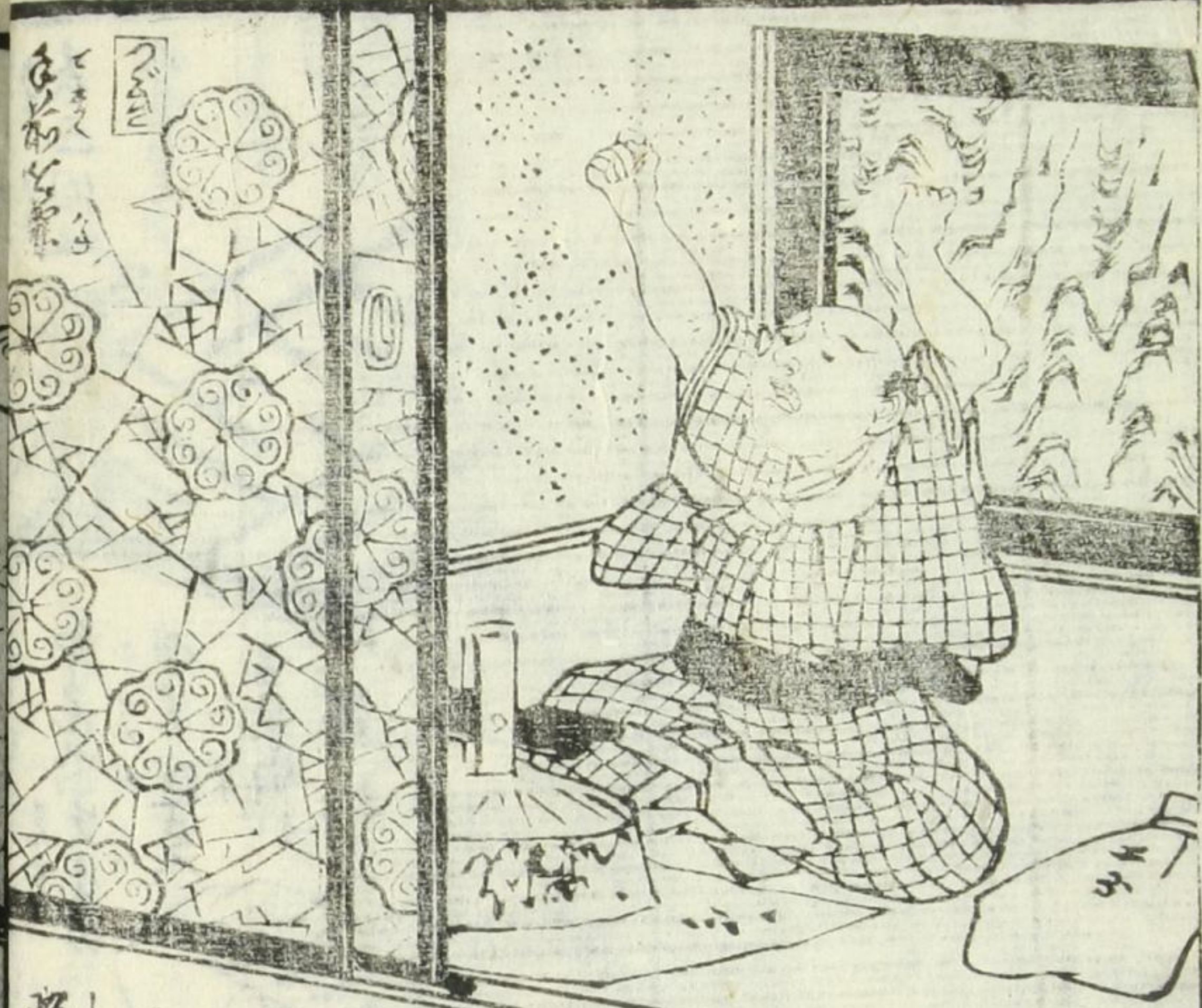


○真父の
方へかえ
ぬ父を
肥前長崎湊
まふ引つてきて死をあらし
家之娘とす及ぶ致す
おとくど冷方なされとすけ
にありまれば如何なる程か
ゆあれかま由我地へ是より
舟舟並りてあつて彼地へ
拙者も縁者もて医業と
何れも我身も故
りて世とわくる

○友
あつて世とわくる
免不成用とてひ
はまのしるすも
ありか
心は
上とてあらふけを疾く
越すそはけのりて
傍りせせぬと
彼へ元来長
君の風あり



○友
あつて世とわくる
免不成用とてひ
はまのしるすも
ありか
心は
上とてあらふけを疾く
越すそはけのりて
傍りせせぬと
彼へ元来長
君の風あり



掃打と云ふは...
 小あまれ...
 送りと云ふは...
 つら悲歎の...
 一云の名...
 男と云ふは...
 和己の...
 本所付...
 希賢...
 て位...
 深...

て...
 世...
 秋...
 の...
 と...
 身...
 考...
 云...
 後...
 叙...



傷寒論
 本草綱目
 友
 左...
 云...

つぎ 疾く下をたての作一おろりついでに下の花堂へおれ
 若者おれをしく見おせんとへど不故あるこの一田抄出い
 いつと云お友と行合をその一隊のあまれと務か
 知るまゝ大地放お見南物お候ふはとぼて
 内弟子おまゝいおひの四の所の村を境下
 の草屋へ来る故田同及ヤさんと
 おお友と云
 由るに代おらば
 先生内政宅おま
 せの中して同座せんと
 約束はしてお見お花おくを個由
 戻りしらくおまの膝下の橋おおしくお

さし出ゆ
 中巻へ

はし
 下七
 中巻へ



北廓花盛紫

春亭史彦作
 梅堂國政画

滋賀縣
 美談
 今常盤布施譚

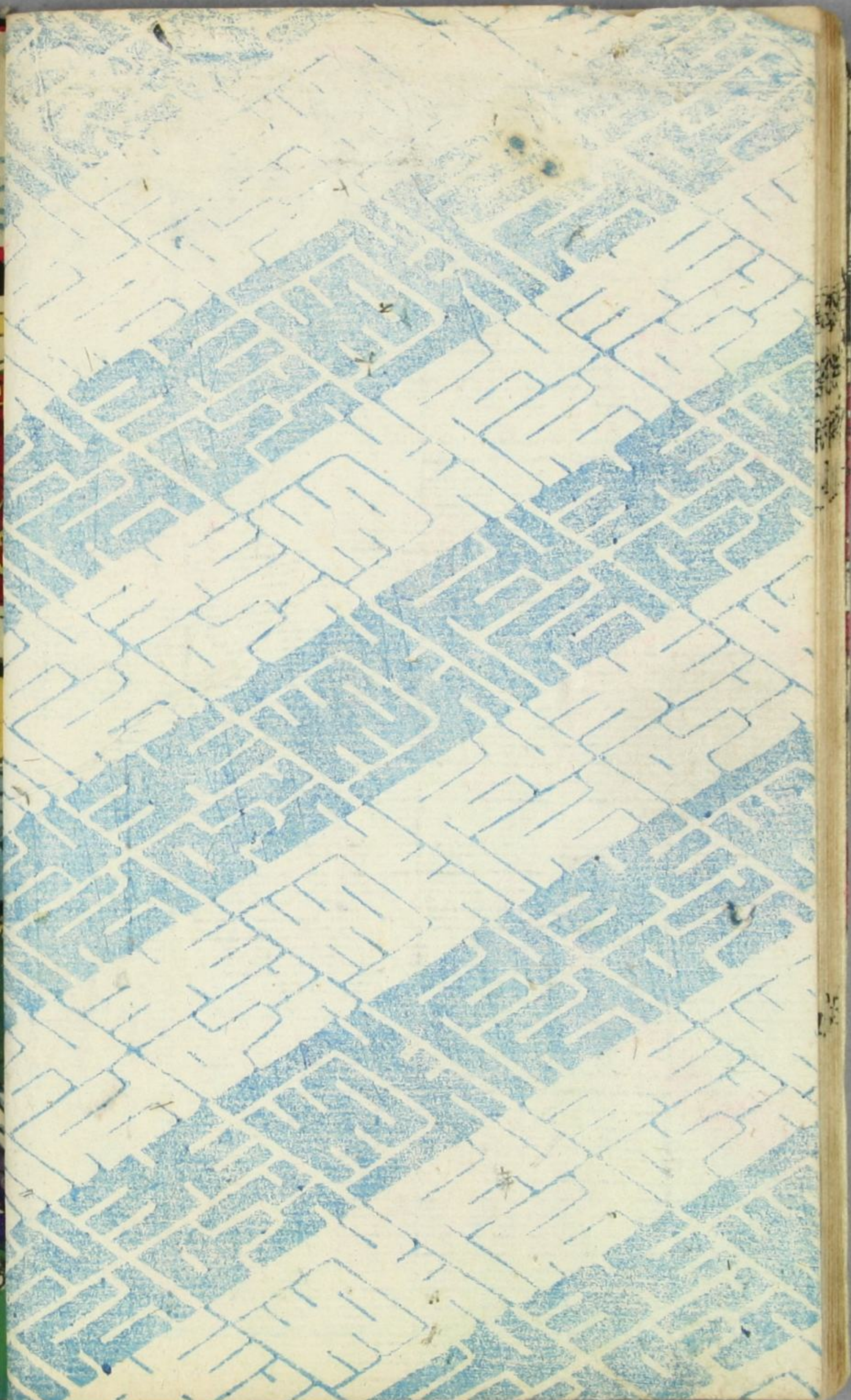
松林伯圓綴
 梅堂國政画

雪月花三遊新話

篠田仙鬼録
 梅堂國政画

書物問屋

東京日本橋區松島町壹番地
 松延堂大西 伊勢屋庄之助版



○玄小室間の落中不谷冬暢と不士統あり父の代より
 牧野家の家老職あり家室はるの名家末も多し
 召使ひて家内もの睦ましくそむも
 勤めお私めく一家中にもる教され
 何不是あく善しるが主婦の中不男
 不あく女子一人のそあくあをせいとあ
 今年二八の
 春をむえ
 容れお
 美藤く人の
 眼みつく絶るゆ名主婦
 珠お愛のつくし何年



成金 刀中

一家中に
 是そといか

小廊花
 味き此糸
 初之
 中の
 国政画

招延を扱

つぎ 老より
左流 亦出きて
お陣 下さして
おし 小陣 刺に
遠く 赤花 見の
若者 亦ろ せは
まて 群
集は
各々 酒の
酔き 見
酒持 まさ
ハふく せ下げ



おまへ 赤花 見の
おし 小陣 刺に
遠く 赤花 見の
若者 亦ろ せは
まて 群
集は
各々 酒の
酔き 見
酒持 まさ
ハふく せ下げ

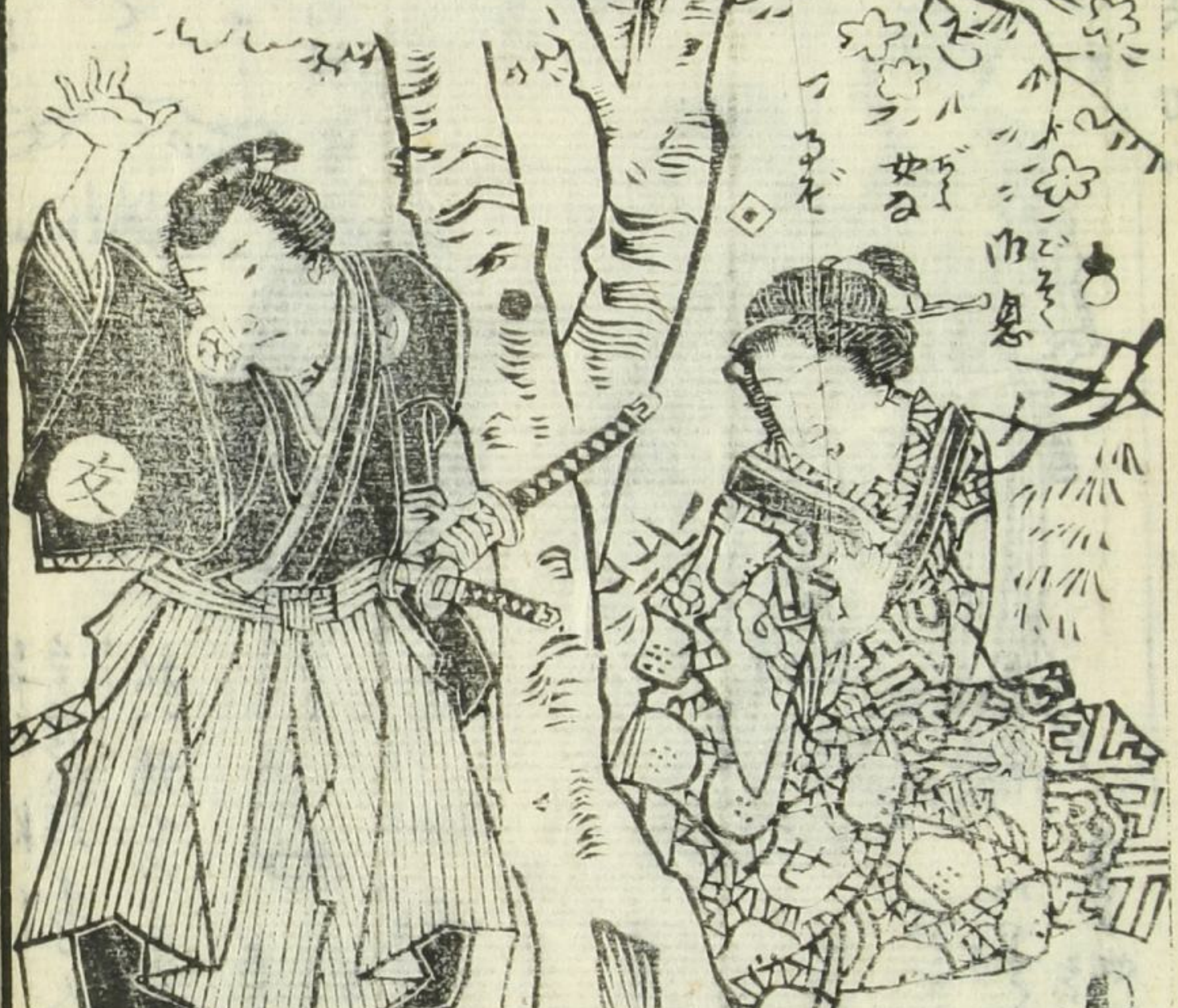
あま ちやう ちやう 荒 金
男の 二人 行 不
酒持 引 揚 て 足 元 踏 踏
おまへ せ 下 げ
かま 振 子 放 かせ の
おまへ 味 悪 く 下 如 同
は せ ば じ ゃ う ち ゃ う 身
は せ ば じ ゃ う ち ゃ う 身
ハ せ ば じ ゃ う ち ゃ う 身
ハ せ ば じ ゃ う ち ゃ う 身



千 ちやう ちやう ちやう
ちやう ちやう ちやう
ちやう ちやう ちやう

あま ちやう ちやう 荒 金
男の 二人 行 不
酒持 引 揚 て 足 元 踏 踏
おまへ せ 下 げ
かま 振 子 放 かせ の
おまへ 味 悪 く 下 如 同
は せ ば じ ゃ う ち ゃ う 身
は せ ば じ ゃ う ち ゃ う 身
ハ せ ば じ ゃ う ち ゃ う 身
ハ せ ば じ ゃ う ち ゃ う 身

あーちや
つぎはと
めつとんと
さるおと
いふと
てまをひ
ろげお
容總のあ
さるおと
われて
忙總と
云つて
ひげの



あつた
の別
娘と
放
何
を
云

あつた
めつとんと
さるおと
いふと
てまをひ
ろげお
容總のあ
さるおと
われて
忙總と
云つて
ひげの



あつた
めつとんと
さるおと
いふと
てまをひ
ろげお
容總のあ
さるおと
われて
忙總と
云つて
ひげの

盛茶切中

日



盛茶刀中



盛装初中

つぎはさきと不憚り見たとさるや
 行はあひて踏之せむらあひ
 まゝ那寄る松の根ごとく
 此つぎ七摺寄おてくさるや

武士の返答
 娘と女抱は
 如何なれば
 難儀ふあひ
 一七角内
 懐我ひよりや
 意へさるや



何事もお客の事ト
 ませぬがさうと
 此方の美粧



大の
 せき
 波士族
 春細
 長
 あり
 あり
 あり

何事の水息女
 何てあはさるや
 知とまがめ
 かこられま
 脊とるや
 さすりて
 同なるに
 娘の影
 濃どるや
 此は情
 向て云
 なる



そのまをぬれぬ
 顔との家光と勧める
 巻腸が娘を
 せのと申さる



業うま
 のせ引
 目小
 名
 せん

茂正茶刀中

つぎはあの方の二人と見えうるお何何
の男あの方の士族のまらま



あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま

あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま
あの方の士族のまらま



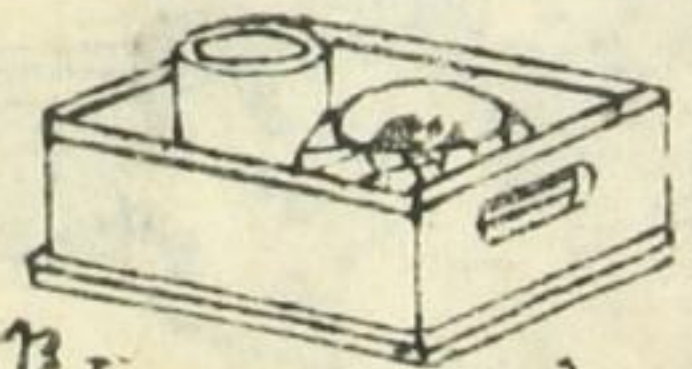
せんも竹のうさぎ
イザ拙者ゆが
おん毛も心あえ
送る中いさんと
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ

おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ
おん毛も心あえ

お救以下なるを人小
 宅ま心お送の下さ
 一と受て身軀大い
 小致るき何れ由
 あれをあ方
 中れを速ん
 と自
 さうく
 疾り初
 後小付
 つ浪
 土の云
 家
 家



お救以下なるを人小
 宅ま心お送の下さ
 一と受て身軀大い
 小致るき何れ由
 あれをあ方
 中れを速ん
 と自
 さうく
 疾り初
 後小付
 つ浪
 土の云
 家
 家



送つ、
 是れを拙者の
 お帳中
 又と婦人を
 お引とめ
 奥へ送つて
 乃分と父母
 告不付
 の内
 盛
 茶
 刀
 中



送つ、
 是れを拙者の
 お帳中
 又と婦人を
 お引とめ
 奥へ送つて
 乃分と父母
 告不付
 の内
 盛
 茶
 刀
 中

雪月花三遊新話
 三編 楠ふみ切
 梅堂國政画
 松林伯圓綴
 梅堂國政画



春亭史彦作
 梅堂國政画
 松林伯圓綴
 梅堂國政画

北廓花盛紫

三編 楠ふみ切

春亭史彦作
梅堂國政画

今常盤布施譚

三編 楠ふみ切

松林伯圓綴
梅堂國政画

雪月花三遊新話

三編 楠ふみ切

梅堂國政画
松林伯圓綴

書物問屋

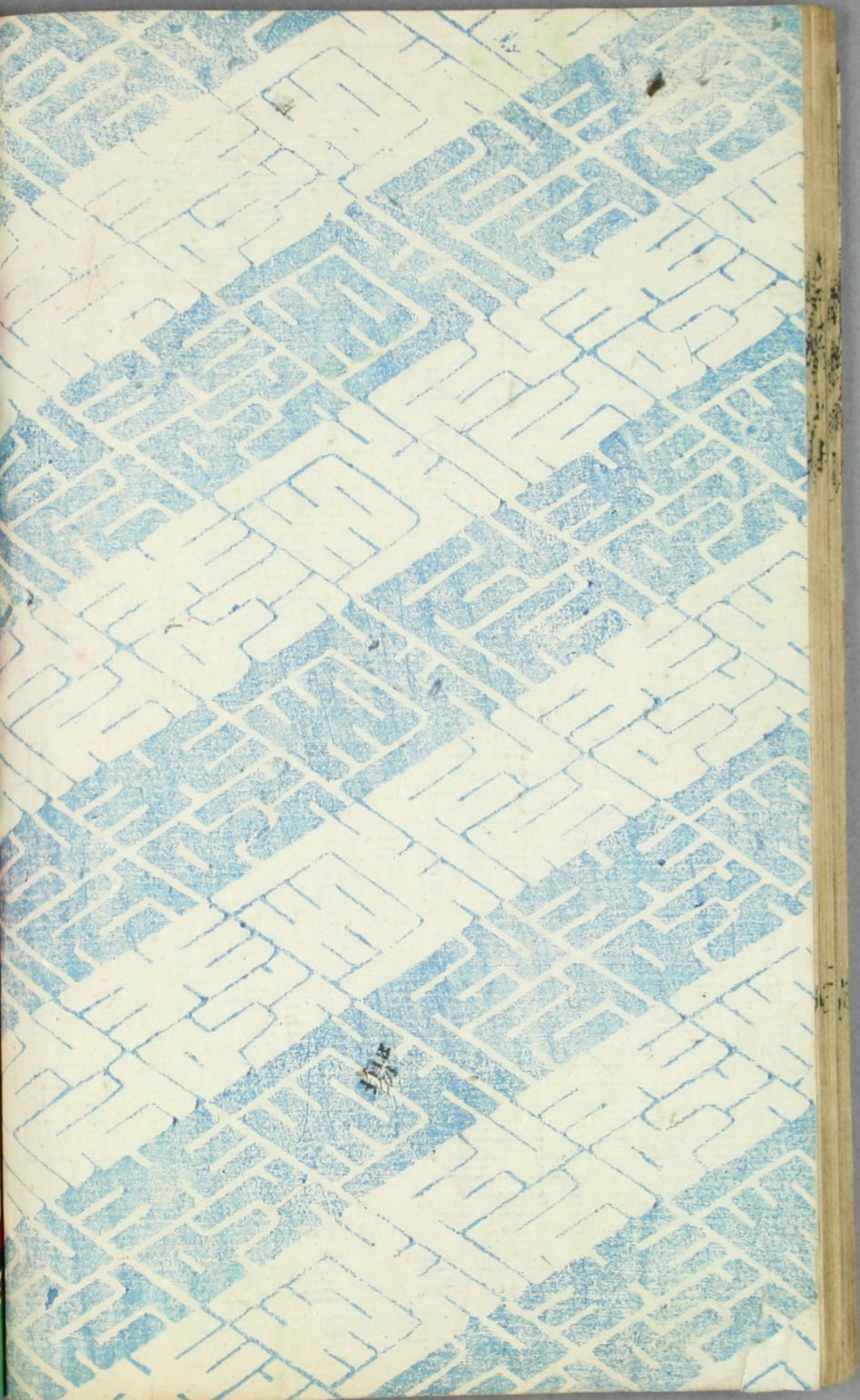
東京日本橋區松島町壹番地
 松延堂大西 伊勢屋庄之助版



松延堂壽梓



下の井





新比翼塚

初篇

下の巻

よきもの
ひらき

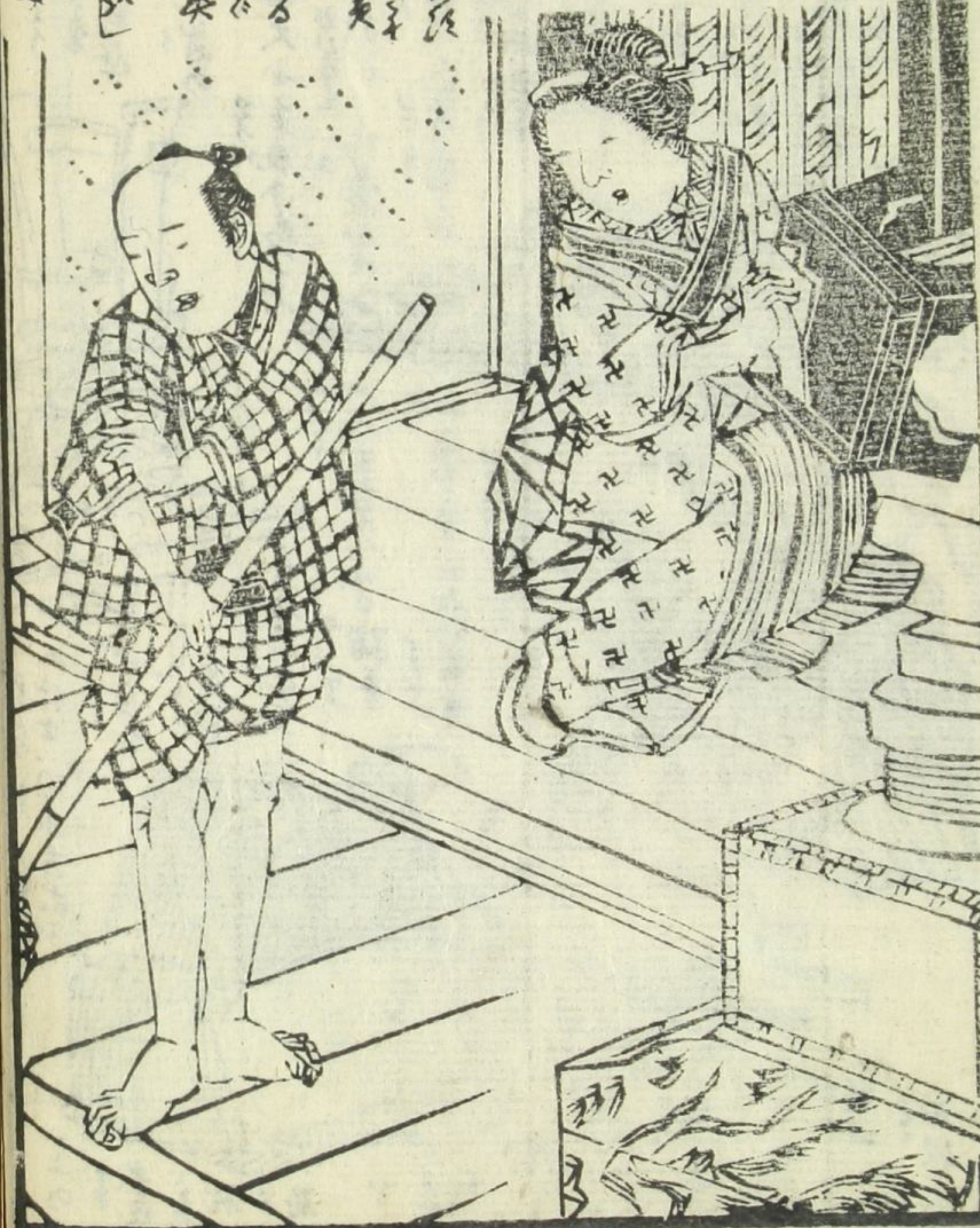


申しつゝまゝに
田と約しと松屋
方あり友とつゝの
多りう長徳大小主流はあつて
管社の田と約しと松屋
家老の谷方にて書出さる
をまるとつゝの松屋中
をまるとつゝの松屋中
をまるとつゝの松屋中

一人あまのりなる指
日あまのりなる指
まぬ若こそ
一人あまのりなる指
日あまのりなる指
まぬ若こそ

成徳茶抄

七三の
 善子問
 お待ぼう
 柳屋芳
 友二の
 友万の
 らあは
 昏に
 友七先
 友三先



と
 友三と
 友七先
 友三先
 友二の
 友万の
 らあは
 昏に
 友七先
 友三先



子成
 子成
 子成



何一の
 とく
 答へぬ
 ありま
 殊小利
 害の存亡と
 通る云々
 たぬとく
 おのま
 余は
 余は
 余は

中も
 くせ
 人あり
 まる
 父母の
 び大
 らは
 とく
 中
 中



何一の
 とく
 答へぬ
 ありま
 殊小利
 害の存亡と
 通る云々
 たぬとく
 おのま
 余は
 余は
 余は

才能ある
 家中の人
 も
 さむ
 とは
 必
 必

お茶もあつたまゝ

いふ事ある事ありとい

文の進歩の世にあはれ

いふる辺におかひく小

剛けりの必定あり

さねばい先父上の徳へ

あつる命をさぶらひ

成る老小は貸付生利

ふと以て強張料

おぼろへ地忍ハ

未

おのれの中学校也

取立て生徒とあり

うらま教育は

生月謝あり

生活

と



出して

あつたれい

長ひて急ぎ学

校とあつたに

兼て其業の

学才あつた

同族小うく

とあられた

川を不生徒

の入門多

返へ

京況り急次へ

おのれの中

云々

を

大い

おぼろ



さらそ

業

剛

て

色

業

建

せ

校

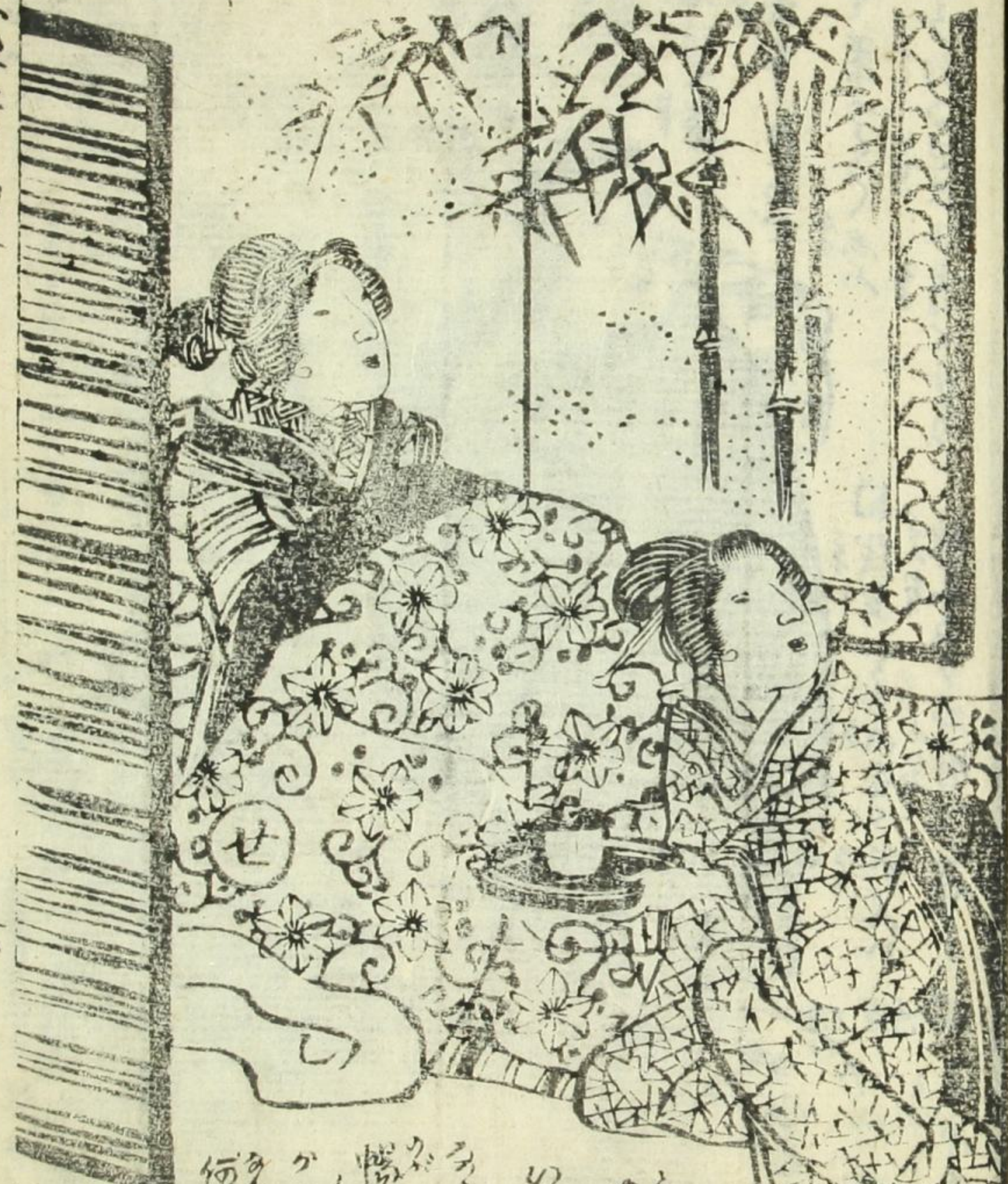
業

つぎを茶の力とゆくのさう茶不
 倦りあり能く生徒と云世話多うお
 其様判成るく日増し繁盛小
 かういりるあそを茶師と有
 かうてあひて送る年月の疎る
 新約の定さきよりたふふ二年
 かういりるあそを茶師と有
 して妻の
 かせのさ
 ありぬ
 体とありしに
 二粒ハ大の



月候
 安くと
 玉の如
 さ胃不
 母
 子大
 魚の香由
 せ返り
 服

ほび
 さるく
 小
 あそ
 日て
 新録
 の類
 とん
 白



あそ
 け
 立
 白

〇 我身も仕度するふらばなる
 〇 父も小あつらんもおどろけ一かまへ
 〇 久しう父へ由緒つてお府は
 〇 何卒友途不遊さんとまうり
 〇 意ぎぬぬは父へ用事と速く
 〇 又我身のおとこお府にお父
 〇 ときかおとまおちも
 〇 孝暢も及たとおふ妻は
 〇 お住はお府をえ
 〇 とあつらん政府
 〇 ようして身選
 〇 の節若あつ
 〇 とあつらん



〇 従是...笠間領
 〇 ねとつらん...我身も
 〇 ねとつらん...我身も
 〇 ねとつらん...我身も
 〇 ねとつらん...我身も

〇 横家様
 〇 有退
 〇 資子の
 〇 合子と
 〇 我身を
 〇 家様と
 〇 不遊さん
 〇 松の
 〇 如お府の
 〇 門途と
 〇 入徳小
 〇 多世全



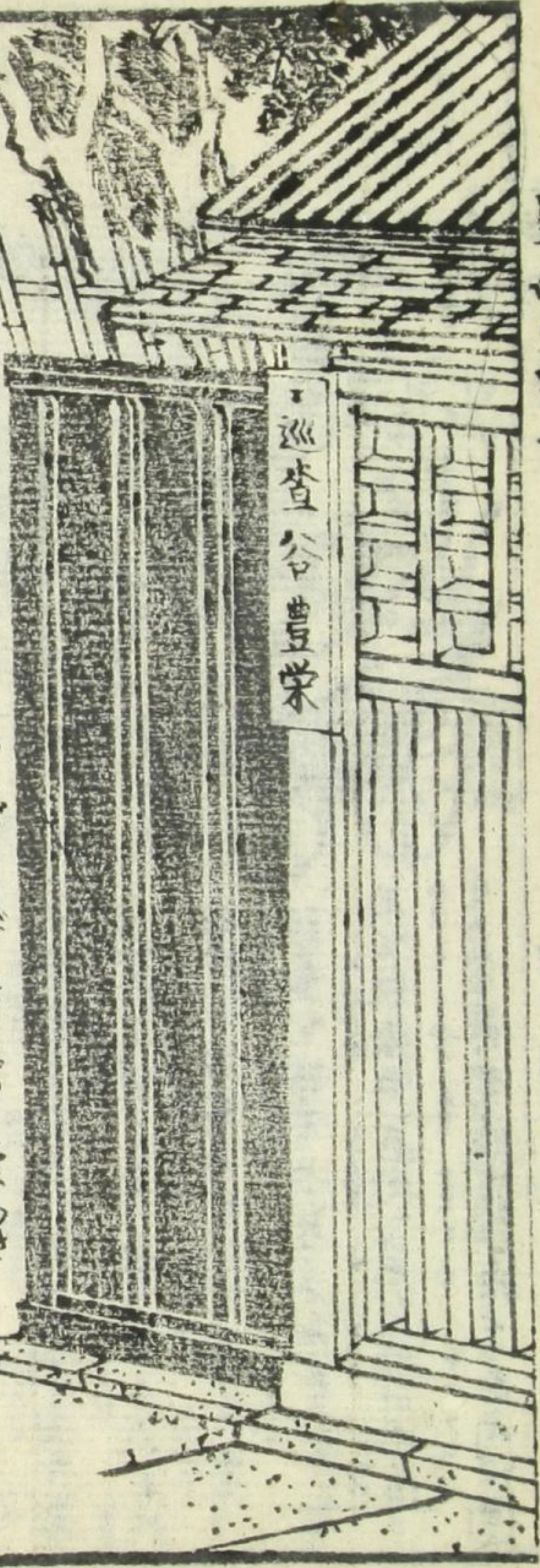
〇 仕度の...とゆて
 〇 出府せ一故何れへ
 〇 うとも因縁さて
 〇 ぬれねと異く候
 〇 軽み...
 〇 いら...
 〇 小あ...
 〇 お不遊...
 〇 ぬれ...
 〇 送る...
 〇 兼い...

010190513713

史彦綴
國政画

又由田子と出せり
共達老小肥主あぞ暢まとなつ子
育てはるるより老業穢地へ入り
功と成走一岐ハ丹ニツル小妻委出以

御届明治十四年四月二十日
決草馬道町六丁三番地
沢村より方編居
編輯人吉田嘉雄
松島町一番地
出板人大西庄之助



北廓花盛紫

春亭史彦作
梅堂國政画

今常盤布施譚

松林伯圓綴
梅堂國政画

雪月花三遊新話

篠田仙果録
梅堂國政画

書物問屋

東京日本橋區松島町壹番地
松延堂大西 伊勢屋庄之助

伊勢屋

